

○議 事 日 程

令和2年9月8日（火）午後4時00分開会

令和2年度第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会

○出 席 委 員 （15名）

委員長	眞 鍋	昇	委員
	山 口 行	一	委員
	鶴 坂 貴	恵	委員
	大 森 康	二	委員
	吉 原 起	人	委員
	宮 前	能	委員
	佐 伯 剛	之	委員
	橋 本 恒	己	委員
	小 西 雅	晴	委員
	中 本	昇	委員
	吉 田 実	和	委員
	山 田 純	子	委員
	岩 津 善	昭	委員
	林	容 子	委員
	中 川 一	之	委員

○事務局

理	事	工 藤 恵 司
企 画 財 政 部 長		西 川 謙 太
企 画 課 長		仲 嶋 浩 平
企 画 課 長 代 理		山 岡 真 吾
企 画 課 主 任		吉 本 博 樹
企 画 課 主 査		山 下 愛 美

~~~~~

◇ 午後4時00分 開会

○委員長 それでは、定刻となりましたので令和2年度第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては何かと御多忙の中、本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。

それでは議事に入ります前に、皆様をお願いいたします。本委員会は議事録作成の都合上、録音をさせていただいておりますので御了承賜りますようお願いいたします。また議事録作成のため、ご発言の際は、挙手の上、私から指名があつてから、ご発言いただくということをお願いいたします。

では、事務局より本日の出席委員の報告をお願いいたします。

○事務局 ご報告申し上げます。本日の出席委員数でございますが、定数15名中15名でございます。

○委員長 ただいま事務局から報告がありましたように、委員会条例第5条第2項の規定に基づき、定足数に達しておりますので会議は成立いたします。

それでは、配付資料の確認を事務局からさせていただきたいと思っております。お願いします。

○事務局 本日、説明等させていただきます資料の確認をさせていただきたいと存じます。お手元のタブレットパソコンに全てのデータが入っておりますが、上から座席表、守口市まち・ひと・しごと創生委員会委員名簿、次第、資料1「第2期総合戦略の取組の体系について」、資料2「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2期素案）」、資料3「守口市まち・ひと・しごと創生委員会のスケジュール」の6種類となっております。

これらの資料につきましては、前回の委員会から使用させていただいております、パソコンシステムでご覧いただけますので、よろしくをお願いいたします。事務局で資料のページ送り等の操作をさせていただきます。なお、お手元に人口移動の分析に関する資料を紙媒体で置かせていただいております。

が、こちらは会議資料内で説明することから、その参考資料としてお配りしております。以上で、資料確認を終わります。

○委員長　それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まずは、議題1意見交換「第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組の体系について」を事務局から説明していただきます。

○事務局　それでは「第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組の体系について」ご説明します。お手元の資料1「第2期総合戦略の取組の体系について」をご参照ください。

第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたって、計画期間ですが、総合基本計画における前期計画と同じく令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間とします。次に、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけとして第1期戦略と同様に少子高齢化の進展に的確に対応し人口減少に歯止めをかけるとともに、市民の皆様に住みよい環境を提供し活力ある社会の維持を目指すこととしており、本目的を達成するための総合基本計画における個別計画の一つとして位置づけることとさせていただいております。

次に、3番目の守口市まち・ひと・しごと創生委員会等での意見等において、賜ったご意見のうち主なものを取りまとめさせていただきました。

まず、前回の守口市まち・ひと・しごと創生委員会での意見については、「新型コロナウイルスに関する項目は盛り込むべきである。」、「6歳から7歳までの支援を充実させること。」、「まちの歴史など市民の誇りになるような事象を宣伝・発信し守口市を好きになるツールにすべきである。」、「安心・安全な環境・まちづくりは大切な要素として、その中でも学校教育は大切であり、特にコロナ禍の中にあってはこの要素は切り離すことはできず、本取組を進めればPRになる。」、「子育て世代への支援については差別化を図ることが大切である。」、「学生の経済格差がネット格差につながっており、その格差が学びの格差になっており経済格差が学びの差にならないような取組を実行すべきである。」、「総花的ではなくもっとターゲット

や取組を絞り込んで戦略を策定しても良いのではないか。」、 「他市の就学児のいるファミリー層を取り込めるような施策をするべきである。」、 「いろいろなことをしているのに情報発信が足りない。知識と情報が愛着に比例すると考えており、その人の中に守口の情報や知識が蓄積することが大切である。」、 「守口市が幼児教育・保育の無償化をしていることから守口市に転入したが、子どもが大きくなったら学力レベルの高いイメージのある北摂とかに引っ越しする可能性もあり、まちのイメージは重要である。」、 「無償化などの施策をたくさん打ち出し続ければ人口は増えるのか考える必要がある。」、 「市民の皆様の転出理由を細かに分析することも必要ではないか。」などの意見をいただいたところです。

次に、去る8月20日に開催した本戦略の全庁的な推進体制として設置をしている守口市まち・ひと・しごと創生本部会議において、意見のあった内容について主なものを取りまとめました。

「第1期戦略においては、設定したK P Iのうち7割が初期値よりも取組が進んだというような形で事務局では評価をしているが、進まなかったK P Iについては、なぜ取組が進まなかったのかを把握すべき。」、 「教育委員会においては学力向上に課題があると認識をしている。基本目標を達成するためにどのような施策が望ましく、かつどの程度の予算が必要なのかというシミュレーションが必要ではないか。」、 「大阪府外からの転入者が多く、かつ転出者も多いように見受けられるが、それらの方々へのP Rも考えるべきである。」、 「創生委員会においてもご意見があった小学校に入るときは定住の地を決めたいというのはそのとおりだと思う。5歳から9歳の転出超過については課題として認識をするべきである。」、 「基本目標3の様々な仕事の間を身近で提供するについては、第2期戦略において縮小しているように見受けられるが、それはなぜか。就業率がクリアしているからなくしたのか。守口市は便利だから住んでいるということが基本ではないのか。本市が夜間人口的な役割に変わっているからなのか。」との質問が本部会議の中であり、それについては「第2期戦略においては本項目については絞り込み

を行ったところである。仕事と暮らしのバランスがとりやすい環境を提供するというような項目を立て、そこで整理をした。」と事務局として回答をしたところでは。

また、「若い世代や子育てファミリー世代の明確な定義がわかりにくい。例えば、若い世代が守口をふらっと訪れる機会を提供するとあるが、若くなくてもぜひとも来ていただいて関係人口の増に貢献いただくということも考えても良いのではないかと思う。そのあたりの文言調整が必要である。」、「総合基本計画における前期基本計画との整合性、どちらもよく考慮してほしい。」という意見があったところでは。

次に、令和2年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会での意見等を踏まえ、本市における若い世代の転出入に係る状況等について市内不動産事業者にヒアリングを行いました。その概要を説明します。

まず、選ばれる不動産の傾向としては、築年数が浅いこと、駅から近いこと、生活インフラが固まってあるということが重要であり、かつ若い世代については、小学校や認定こども園等が隣接してあることも併せて重要視をされる傾向にあり、子どもの送り迎えや買い物が狭い範囲で完結するというところに魅力を感じるという声があるということです。

次に、守口市から転出される傾向については、子どもによりよい教育をとるという思いから転出される方、また阪急沿線などに地域ブランドを感じられる方もおられるとのことでは。

次に、守口市がこの分野で取り組めることとしては、本市の魅力を発掘しそれを発信することに尽きるというような意見をいただいたところでは。

次に、子どもの転出入状況の分析については、前回の創生委員会において0歳から5歳における転出入状況についてご議論を賜ったことから、ここで改めてその状況に関し住民基本台帳を基に分析を行い、その一部をお示ししております。

まず、子どもの転出超過について、地域別に分析した一覧でございます。これによると0歳から2歳については、大阪市から転入が多く、次いで北河

内地域からの転入が多くなっている状況でございます。一方で、0歳から5歳までの全年齢にわたって豊能地域に対して転出超過となっており、かつほぼ全ての地域において5歳児は転出超過となっているデータを得ることができたところ です。

以上の状況から、前回の創生委員会で議論していただいた子どもが生まれた直後は幼児教育・保育の無償化の影響、あるいはその他の要因等によって転入超過となっておりますが、お子さんが小学校に入学直前である5歳児のときには転出超過が起こっており、特に地域ブランドのお話が前回もありましたが、豊能地域への転出超過となっているとデータにおいても読み取れたところ です。

次に「4 取組の体系と本戦略の実行を通じて実現を目指す「守口の姿」について」ご説明いたします。第2期戦略については、本市の人口減少の歯止めに特化した計画とし、かつ第1期戦略における成果と課題を踏まえつつ、まち・ひと・しごと創生委員会におけるご意見等を考慮し、取組の体系を取りまとめたところ です。

まず、守口創生の基本理念としては、第1期戦略の基本理念である「安心・快適・便利に子育てできるまち」として、幼児教育・保育の無償化をはじめとする子育て支援のトップランナーとして鋭意取組を進めてまいりました。第2期戦略においては、これまでの取組を踏まえつつ、本市の魅力を積極的に情報発信しつつ、若い世代が「子どもといきいき暮らせるまち・守口」を掲げ、第1期戦略を継承しつつ、子どもさんにとって守口市でよき思い出をつくり、将来家庭を持たれた際は守口市に定住したいとの思いを込め、このような内容で設定しました。

次に基本目標ですが、4つ設定しました。基本目標1「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」については、第1期戦略と同様の目標とし、人口減少に歯止めをかけるためには必要不可欠な目標として、第2期戦略としても取り組んでまいります。

次に、基本目標2「若い世代に守口の「まちの魅力」を広く伝える」とし、

創生委員会においても意見を賜っております情報発信を強化するとともに、本市に転入された方が末永く本市に住み続けることを目指すためには、新たな魅力の創出についても取組を進めていく必要があると考えています。

次に、基本目標3「子育てファミリー世帯の守口定住を促す」については、第1期戦略における安心・快適・便利に子育てできるに加え、子どもと出かけやすい環境の提供、暮らしと仕事とのバランスがとりやすい環境について取り組もうとするものでございます。

最後の基本目標4「良いイメージを持って守口を誇りに思う子どもを増やし、育てる」については、守口で住んでよかったと思う子どもたちを増やし将来家庭を持つときや子どもを育てるときに守口を選び定住してもらうことを目指すもので、学ぶ力と心を育む学校教育の提供などに取り組むこと、また行政におけるハード面の整備にとどまらず、本市との関わりや市民の皆様相互の仲間づくりなどソフト面を通じて、本市に愛着を持ち定住につなげていきたいと考えています。

最後に、本戦略の実行を通じて実現を目指す「守口の姿」については、それぞれの基本目標における本市の目指す姿に向けた取組の基本的方向性を図示しています。

例えば、基本目標1「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」については、一番上にある欄が本戦略の取組において目指すべき本市の状況を示しています。次に中央の欄ですが、目指すべき本市の状況を達成するにあたり具体的にどのような状況が必要かを掲載しています。最後に、一番下の欄については、その状況を達成するにあたって必要な施策の方向性を記載しているところです。このような構成の下、基本目標2から4についても同様に図示しております。

以上で説明を終わりますが、本日はこれらの体系について抜け落ちている視点はないか、また特にこれら基本目標等を達成するにあたって必要な市としての取組などについて、各立場からご意見を賜ればと存じます。なお、今後については、本日賜ったご意見等を大いに参考として、これらの基本目

標を達成するにあたり必要と考える具体的な取組を事務局において各関係部署に提示し、取りまとめていく予定です。

なお、資料2現時点における戦略の前半部分について、説明させていただいた取組の体系や、第1回創生委員会において説明した第1期戦略の総括に関し、掲載しているのもので、またデータ等を送りますので参照を賜ればと存じます。

以上、第2期総合戦略の取組の体系についての説明を終わります。

○委員長 第1期と第2期との差とかその辺がよく聞くとわかるが、なかなか分かりにくい部分があるかとは思いますが、これは考え方がもう少しここはこうしたほうが良いんじゃないかとか、そういうことをコメントいただけたらと思います。

○委員 0歳児から4歳児までが増えているというのは、まさに政策効果が表れており、守口の特徴が生きていて感じています。就学前から他市へ流れて行くところをどれだけ止めていくかという、そのところというのは結局のところ、結婚それから出産の時期に入ってこられる方が賃貸で入ってこられるのか、住宅を購入して入ってこられるのかの違いではないかなと思います。守口は比較的、北河内のエリアの中でも利便性も高いですから大阪市内にも近いということもあって交通の便も良いし、人気エリアだと思います。買いたい不動産がうまく住宅が供給できるような態勢が取れば、定住人口というのか、入ってこられるところが最終住みついていただけるエリアになる可能性が高いと思うので、逆に古い連棟式建物であったり平屋式建物であったりと、守口市の特徴として、大地主がおられるなど、割と狭小物件が多いエリアがあるので、うまくそういうものが流通や再活用できるように行政として携わっていただければ、もう少し定住される子育て世代が入ってこられるのではないかなと思います。

近隣のところでいうと、寝屋川市や四條畷市では、行政とそれぞれの空家というか、要は高齢者の方が最終的に住めなくなる、または施設に入る際に相談できるようなプラットフォームを立ち上げようとされている。そのプラ



ットフォームの構成団体は専門の宅建業界の方や建築関係の方、土地家屋調査士、司法書士、金融機関などいろいろな方面の連携を取りながら、相談しやすく、相談すれば解決できるように相談窓口を設定するというところも一つの例としては効果があると思う。守口の場合、特に7市の中で、私は非常に魅力的なエリアになっていると思うので、そこをうまく打ち出していただければより定住人口は増えてくると思うので、ぜひこの戦略が決まって個々のプランを立てられるときに、そういうところを加味していただければと思います。

○委員 数字を改めて見て、全体的に転入が多くなってという部分については良いが、5歳児が出ていくところがクローズアップされて、数字として出てきたというのは非常に問題点がはっきりし、よかったと思います。

5歳児を抱えている方が出ていく一方で、残る方もいらっしゃると思います。残られた方に何で残られたのかというのを聞いてみても良いのかなと思います。やはり守口のここが良いから残ることに決めましたみたいなことがあれば、それが出ていく人に認知されていないのであれば、それを認知させることによって引き止めることができると思います。5歳を超えても守口に残ってくれている方に理由を聞いてみるというのも一つの手だと思います。

あと、鶴見緑地の半分が守口市なのになぜ守口という名前がついてないのかがすごい疑問で、大阪には4大緑地がありますが、鶴見区と守口市にまたがっていて、なぜ鶴見緑地なのか。ちょっともったいない。せっかく大阪には4つの大きな緑地があって、そのうちの一つが守口にあるということを市民の皆さんが認識しているかが疑問です。転出される方には、あなたの行く先にこんな緑地ありますかみたいな感じでPRすれば、確かにコロナでやはり大きな緑地が近くにあるというのは外出禁止とかいろいろな流れからいくと、そういう大きな空間が近くにあるというのは非常に良いことだと思いますので、そこら辺をアピールすれば良いと思います。

○委員長 確かにそうですね。鶴見緑地というと大阪の鶴見区というイメージがあります。

○委員　何かすごくもったいないなと思っていて、半分守口市だし、何でそうなっちゃったのかなという気がします。今から名前を変えるのは難しいのかもしれませんが、守口にはこんな大きな緑地があるということをもうちよつとこんな立派な緑地が近くにあるというのを理解してもらえればと良いと個人的に思っています。

○委員　事務局の方が4ページを策定するにあたって私の第一印象は1期戦略と比べて随分と漢字が減って読みやすくなったと思います。我々は、この1期戦略のほうが何となく使い慣れているが、市民の皆様には少しイメージがしやすい表現に変わっているところがすごく好印象でした。

もう一つ言うと、非常に様々な意見の中で一つの方向性を位置づけられているような気がしますし、子どもですとか若い世代というのは元からあったんでしょうけれども、子育てとか就学とか住居とかそういったものをキーワードにターゲットを絞り込もうとする努力をあちこちに見受けられ、すごく良い目標になっているような気がします。大変、苦勞されたんだろうなと思います。

私、これを見て少しイメージしたことが、何か守口に外からお見えになって、そこで赤ちゃんから育てて小学校に入って家を買ってそのまま守口で家を構えて、そしてお子さんを一生懸命教育の中で育てて行って地域や学校等みんなで育てて行って、その方がそこで守口で大きく大人に成長していくといったようなストーリーが戦略として標準的な取り込みのモデルをもう少し情報発信をする際に何か一つ作ったら面白いと思います。

いずれにせよ戦略というのは、何らかのストーリーがあると頭にすっと入っていきやすい。もちろん、いろんなそれ以外の枝葉というのは考慮しないといけないんでしょうけど、一つのモデルというのを守口の外から、守口に関心を示して、守口にお住まいになってお子さんを生んだり結婚したりして、それがそこでその地で大きく家庭をつくって育てて行って社会に溶け込んでいくというイメージ。その方々が守口の社会の一員として市民として、またそれを守口に還元していくといったような循環的な社会の在り方をモデルと

してつくられたら良いと思いますね。単純にそういうふうに思いました。コンセプトは非常に良いと私は思います。

○委員長　今回の第1期戦略と比べて、守口に来ていただけた市民の方、あるいは出て行った方とか、そういうところを中心に不動産業の方にアンケートを採ったりして調べてはいますが、その一方で実際に守口にずっと住まわれている方の意見も本当は非常に重要ですね。

それで、市民の方が今日はちょうど3人いらっしゃいますので、一人ずつ考えを一言ずつお願いしたいと思います。

○委員　まず、先ほど誰かがおっしゃっていたように、鶴見緑地の半分を守口市が持っているというのを守口市に来るまでは知らなかったです。全域が鶴見区にあるものだと思っていました。2017年に守口市に引っ越ししてきて、実家は城東区で小学生の時は鶴見区に住んでいたんですけど、ずっと鶴見区のものだと思っていました。まさか守口市にも入っていることは最近、知りました。確かに守口市も半分持っているっていうことをアピールしても効果があると思います。

○委員長　鶴見区から守口に転入した理由というのがありますか。

○委員　子どもが生まれるにあたってどこに住もうかなというのを妻と考えていて、守口市が0歳から保育の無償化というのを聞いて守口市に引っ越しそうとなりました。

○委員長　5歳というか小学校に入るあたりでそのまま守口で定住される方もいるし、出る方もいるという分析があったが、ご自身は正直どんな感想をお持ちになりましたか。

○委員　私は守口で家を買ったので早々には動けないですが、周りの話を聞いていると5歳ぐらいが本当に節目で、例えば6歳になってから買うとなったら転校するか入る直前だと大変なので、その辺で最終決めるならそのタイミングとはよく聞きます。あとは節目、節目で中学生に上がるときにもまた節目が来てという感じなのかなという、そういうイメージが周りの話を聞いているとあります。

○委員 私もずっと守口市在住ではなかったんですけども、結婚を機にこちらに来てから、もう5、6年になりますが、住む前は全然わからなかったんですけども、住んでみて結構住みやすいし、別に治安とかも悪くは思わないし、住みやすいまちだなと思っていたので、自分としてはすごく良いまちであると思っていましたが、大阪市内に行ったときに、守口に住んでいると言ったらえらい遠くの端のほうから来ていただいていた感じがなって、あまりイメージはよくないのかなと思ったことがあります。何でなのか、すごく良いところだと思っていたのに大阪市内の方から見たらそうでもないみたいで、それがちょっと自分としてはすごく不思議に思っていました。だから、新たな方が来にくいのかなというふうに個人的には思います。

○委員 私も2年ぐらい前に守口に引っ越してきて、生まれは門真市なのでよく守口のことは知っていますが、やはり良いイメージはなく、結婚して門真市から高槻市に出て、2年前に守口市に引っ越してきましたが、まず公園がきれいではないとすごく思います。子どもがよく遊びに行きますが、どういう経緯で清掃されているのかなというのはすごく疑問に思っていて、自治体によって多分違うと思いますが、高槻市では、自治会の中で秋とか夏とか絶対掃除が回ってきて草むしり等をさせられたが、面倒くさいなと思うこともありましたが、やはり常にきれいなんですよ。でも守口市の公園は結構草が伸び放題のイメージがあって、そういうのもやはりイメージがよくない一因であると思います。

あと、広報誌は結構きっちり見るんですが、実家が今も門真市なので門真市の広報誌も見らるんですけど、子どもが参加できるイベントがあまりないとすごく思います。門真市は、無料でやっている漢字の勉強会などが載っていて、行かせたいなと思いますが、守口市の広報誌を見ていると結構お年寄り向けや赤ちゃん向けが多く、小学生を対象というのがあんまり見当たらないと思います。興味があるものがあれば、子どもにも行かせたいと思うのですが。

○委員長 例えば、門真だったらどんな感じですか。

○委員 夏休みに行かせたいと思ったものは、漢字検定に合格するために10回とか通えるようなものがありました。後は、門真市ですと、行って見たことがあるのは、走り方教室やそろばん教室です。

○委員長 ちょうど、大阪工業大学の山口先生がいらっしゃるので、寝屋川のキャンパスでこの前、小学生向けの工作のような、夏休みの宿題の工作をやっておられて、その辺は大学としてやられているのでしょうか。

○委員 大学としてやっております。

○委員長 寝屋川のキャンパスだけでやっているんですか。

○委員 大宮キャンパスも梅田キャンパスもやっていますが、今年はコロナの関係もあり、やっていません。

○委員長 なるほど。僕が勤務している大阪国際大学も、キッズキャンパスという事業でお米を作っています。今年はコロナの影響で中断状態ですが、確かに大学とかそういう学校ももっと積極的に市民、特に小さなお子さんたちに役に立つことができたら良いんでしょうね。今、僕が行っている大学でやっているのは小学生以降です。小学校より前はどこにお願いするのか分からず、結局何もやってない。確かにおっしゃるように組織化されてない部分がありますね。小学校に入ると小学校からいろいろと連絡が取れるようになるが、幼稚園や保育所はそこまでなかなか手が回らないということもあるみたいです。ぜひ、市役所の方に知恵を出していただきたいと思います。

○委員 4ページのところは、わかりやすく表現されており、伝わりやすいと思いました。事務局の説明の中で何回かブランドという言葉が出てきたと思いますが、私はマーケティングが専門でブランドを教えていたりしますが、今日は守口市のブランド価値というのをいかに上げるかというのが大事になってきているんだなということを非常に感じました。ブランド価値というのは、ブランドイメージというのがすごく大きく作用しているんですけども、多分、今の守口のブランドイメージってあまりよくないと思うんですね。なので、良い部分であれば便利だとか、そういうイメージがついているんだと思うんですけど、そのイメージを変えていけないといけませんが、ブラ

ンドイメージを変えるにはどうしたら良いかというのは戦略が必要なんです。そのためには、他の市町村にはない突き抜けたイメージをつくっていかないとイケなくて、それを今回新しい総合戦略の中で突き抜けたイメージをつくっていかれたら良いと思いますが、その中の1つのキーワードがやはり「子ども」になると思います。いかに子どもや子育て世代に突き抜けた行政サービスをしていくかというのが新しいイメージをつくっていくのかなと思います。でも、それを網羅的に今度はちゃんと広報していかねばいけないので、はっきり言って私、茨木市の仕事を結構長いことやっているが、茨木はすごくイメージが良いですね。でも、はっきり言って、守口市と施策のレベルは変わらないと思います。でもイメージが独り歩きしています。だから、良いイメージがついている市町村は良いですけど、じゃあ茨木市と守口市はどうイメージが違うのかともっと具体的にやろうと思ったら調査をしたらわかりますが、ブランド力をどうやって上げていくのか、ブランド価値をどういうふうに上げていくか、ブランドの方向性をいかに変えていくかということがすごく大事で、そういうときは、単に情報発信すれば良いというわけではないと思います。そうなってくると、例えば市役所の職員の市民に対する行政サービスの態度も、ブランドイメージを左右する大きな要因になっていたり、小学校の先生の態度というのがすごくブランドイメージになったりするので、今度はそのブランドイメージをつくる人というのがまた大事になってくると思います。その辺り、すごく体系的に戦略をつくっていかないと駄目だなと感じました。

○委員　　今の話の続きになるかもしれないが、やはり守口市は保育のところでお金の支給が厚いということですが、お金だけじゃなくて子どもが活躍するその場を提供する機会を与えるということで、5歳までの転出が課題だと想定し、例えば、応募対象は就学前の子どもとする、けん玉守口ナンバーワンキッズように「〇〇ナンバーワン」を選ぶのを市が主催しそこでナンバーワンをいっぱいつくってはどうかと思います。ナンバーワンをつくとナンバーワンを捨てて他の市に行こうと思わないんじゃないかなと思います。

そのままナンバーワンになった実績をもって小学校に入って、また元気よく活躍してもらおうというので引き止めていくと、そういうのも良いのではないかと思いました。市が子どもに優しいという活躍の場を提供してくれる市なんだというイメージをつければ良いのではないかと思います。幼稚園と違って多分市民大会が存在しない。小学校ぐらいから市民大会とか出てきて、市でナンバーワンを決められるが、幼稚園や保育園というのは市でナンバーワンというのはいないと思って、それをつくっても良いのかなという気はします。

○委員長　それは、隣の人間国宝さんではないが、グッドアイデアです。僕は、実は小学校のときはまだ西宮市に住んでいた。小学校の中で競争して優秀なチームをつくって甲子園球場の中で大会が行われた。あれは強烈に覚えていてそのときの写真をいまだにみんなに自慢している。ほかにご意見はありますか。

○委員　皆様おっしゃっていることは、とても納得できます。私も守口市と門真市の放送局でありますので、先ほど委員がおっしゃったように、守口市の広報誌も門真市の広報誌もよく見ますし、それを放送で発信していきますので、確かにイベントが門真市のほうが圧倒的に多いなと思います。特に、ここ数年は感じています。先ほどおっしゃったような漢字検定のための講座や走り方講座、理科実験教室、クッキング教室等の小さなイベントや門真市民プラザで開催される大きなイベントが結構あります。守口市は、市民まつりやいい夫婦フェスタといった大きなイベントがありますが、それ以外が少なくなったと思いますし、地域で個々にやっているものも少なくなっているかと思います。

あと、お子さんに焦点を当てると、ここ数年、青少年育成の活動に対する補助が打ち切られていっており、少年少女合唱団や青少年吹奏楽団、ジュニアブラスバンド等の青少年が活動しているいろいろな場があったのですが、練習する場がまず無くなり、新たな練習場を探すのが大変で、結局はバトングループなどは解散してしまったので、残念だなと感じています。そこをも

うちちょっと何か、今やっぺらっしやる人もたくさんいらっしやるので、これからでも、そこをサポートできたら良いんじゃないかと思います。

○委員長　市の方にとっては耳の痛い話かもしれないですけど、ぜひ前向きにお願いしたいと思います。地元で活躍されている方もいるので。

○委員　私もちょっといろいろ聞かせていただきまして、子育ての部分については、この市で子どもから育てて市がこういうふうにやってくれたとか、この市のイベントを楽しみにしていてというところを積み上げていくことによって、守口市ファンというのを市民の中で子どものときから育てていって、その子どもが大きくなっていって守口で住んで子どもを生みたいなというようなイベントや施策を増やしていけば、人口も改善してくるのではないかなと思います。

○委員長　商店街がシャッター街になっており、今はちょっとコロナのこともあってなかなか夏祭りとかも頓挫しているかと思いますが、そういったこともお子さんたちにもう少し楽しいようなイベントをしても良いと思いますが、どうですか。

○委員　商店街もいろいろ企画して頑張っています。おっしやっぺらっしやるように今集まってというのがなかなかできないんですが、そういう取組をやっている商店街に対して、市は協力してくれてはいるんですけど、PRも含めてもっと市が協力してくれれば、子どもが集まってきて楽しい思い出をつくっていくことによって、市のイメージも良くなるだけでなく、もっとこのまちを良くしていきたいという子どもが増えてくれば、よりよい守口になっていくのではないかなと思います。

○委員　3つほど質問を確認させていただきたいと思います。ここに書かれている基本目標は、我々がこの場で議論してきた中身になるので申し分ないと思うのですが、ただ、ここに書かれているこの機会を提供するとか環境を提供するとかといった内容の具体策というのがあるのかということと、2つ目に具体策があるとしたら、それらを実施することによって今この転出超過で問題になっている5歳児にフォーカスしたときに、それらの歯止めにな



るような施策になっているのかといったことをお聞きしたい。3つ目が、15ページに記載されている内容になりますが、この転出超過は、2015年度から2018年度はずっと2桁だったのが2019年度は1桁になっているということで、この2019年度に何か施策をされてこうなったのか、この違いは何なのかということをご確認させていただきたいと思っております。

○事務局　まず、基本目標のところの機会を提供するでありますとかという部分、特に基本目標2の部分かなと思っておりますが、そちらについては、これから各部署に提示する予定のため、ここはまだ考えていないところではあります。例えば住む魅力を感じる環境を提供するというようなところについては、例えば不動産事業者への物件の紹介のサイトへの掲載のコンテンツとかの素材について、不動産の協会等があるので、そちらに守口市の良いところの情報を提供させていただき、あるいは守口市ってこういう市だと紹介させていただくというような形があるのではないかと思います。住んで魅力を感じる事例等も紹介させていただければと思っております。その他にも、ふらっと訪れてという部分については、例えば、流山市では、市の良いところを紹介する「ことりっぷ」という観光案内冊子を作成しております。本市においても書店とかに置くなどもひとつ考えられるのではないかと思います。もちろん、それに載せられるための魅力あるコンテンツを発掘し、ふらっと来ても良いかなというふうに思ってくださいというような情報発信が必要であると思っております。5歳児の転出超過への歯止めにするために、定住の地を決める際に選んでもらうことが大切となるなら、当然まちの魅力や住む魅力、ふらっと来て良いまちだなと思ってもらうことが大切になると思っています。また、守口市でなかなか高い学校教育を受けるというようなことが期待できないというような思いで転出をされてしまうというようなところで、学力を向上させ、良いイメージを持っていただくために、いろいろな施策を打っておりますので、そういうものをPRしていくというようなことで歯止めをかけたいと思っております。

それから、2019年の転出超過に歯止めがちょっと一定落ち着いてきている

という部分についての分析については、持ち合わせておりません。

○委員長 よろしいでしょうか。

○委員 はい、結構です。

○委員長 その他、ご意見等はございますか。

○委員 今、学力の話が出たので、私も入社して以来不動産の担当が長いものですから不動産事業者のヒアリングとなると、なかなか共感できるものがあった。やはり5歳、それから小学校に入る、中学校に入る、そのときによく校区が重視される傾向にあると思う。東京から大阪に仕事の都合で転校してきた際なども聞かれていることが多いので、そういう意味では学力も大変重要だと思います。

また、学力向上だけではなく、その学力の向上を支えているのが預けている生徒の保護者であって、学校で保護者と先生方が一緒になるということがベースになる部分だと思います。そうするとつまり、まちとなると思います。子ども会や自治会、きれいな公園など、基本は外であると思います。その1つずつの積み上げで、校区が良くなって、校区の集合体が市の良さにつながってという動きが重要なのかなと思います。それをベースに、尖った施策が重要になってきます。うちのまちはこの部分に力を入れていますということが発信できることが重要だと思います。4ページ目に精神論を掲載されているように思うが、具体例を出していくことが重要だと思います。もう1つ言うと校区の一つの判断基準に、保護者は、この中学からたくさん学力の高い高校に行って実績の多い中学校に入れたがる傾向があるのではないかと考えております。これも1つ、何か施策を打っていくヒントになるのではないかと思います。

最後に、古民家の再生について委員から出ました。そういったものを一つずつ、皆さまから積極的に出ている意見を解決していくなど、実施の可否で判断していくのも新たな活力かと思えます。

○委員 私は京都に住んでおり、家が伏見ですが、今おっしゃったとおり京都は学区がすごいブランドになっており、御所の南側は御所南と言って、

京都は人口減少の一途をたどっているんですけども、御所南は学区が良く、先生の評判もよくて、先生方が頑張っており、進学率が高いので、御所南の中京区だけが人口増えている。新聞広告でも、そういうふうな御所南というブランドを打っています。それだけでみんな中京区へとになっており、その周りにいっぱい今マンションが建っています。守口にもちょうど文禄堤が一つのブランドになっており、文禄ミッドタワーという名前のマンションも建ったりしているので、そういうふうな地域に焦点を絞ったブランドネーミングによって、当然学力を上げるというのも非常に大事だとは思いますが。そういったやり方をしているのは京都市の学校行政だと思います。

最後に、私は、伏見区で観光案内のボランティアをさせていただいていて、伏見区も知られていないですが、太閤がつくった城下町でして、そこにはちょうどボランティアによる観光案内をしています。そういうまちづくりの中はかなり学区内の歴史を無料セミナーで市民に公開しています。そこに人気の先生がくると、200人の定員が一気に満員になるなど、伏見の歴史ということを切り口にしてブランド化を図っています。その観光案内が始まったのは去年ですが、今年になり、学区内の高校がその観光案内と一緒に地域を巡りたいというような動きも出てきて、学校と文化がセットで、文化の発掘と学校のブランド化によって守口の歴史の再発見と学校への取組や、こんなことができるよというような発信の仕方もまた1つありかなと思います。

○委員　私は、ハローワークですので仕事を中心になりますが、本当に教育というのが重要なキーワードで、校区の問題や小中一貫校、小中高と大学を招聘するなどあると思いますが、大学等がある地域はやはり絶対的に学力が高いと思います。この前、本委員会ですべて言っていたように、学力が高いと就職も安定してくるということで、安定した職業を得ることができます。そうすると、基本的には家を買う等の定住に繋がり、安定した定住性ができるので、教育がすごく大切だということを実感しました。先ほどから言われているように、建物をつくる上で、守口市は大日駅に大きいショッピングモールをつくりましたが、それ以上に文化的な都市をつくるといったイメージがな

と思うので、何か物足りないなと感じる部分もあります。そこに、学校を持つなど色んなものがないのかなというところで、本来の仕事は仕事を探しているだけのことでそれを提供していくことですが、それに伴う前に教育そのものの重要性を痛感していますので、教育の水準をもっと高めていきたいと思う。どうすればその学力が実際問題上がっていくのかと思います。

○委員長 全くの余談ですが、コロナの影響でハローワークとかやはり仕事がシフトするとかそういうことあるんですか。

○委員 コロナの影響で基本的にサービス業が全体的には低下しています。あと販売等、かなりその業態は変わっていくかなと思います。それから、景気の回復がどこまで長期化されていくことによって、かなり職種の転換を図ってもらわなければならないですが、なかなかそこまで職種の転換を図るところまでは行かないというのも実際問題です。経験がなければやりたがらないということ、その経験がない分どれだけの報酬が得られるのかということも当然出てきますので、その辺りが今後、かなり変わっていくと思われま。以前のリーマンショックの際には、基本的には製造業が衰退していった、その部分を全部サービス業や介護関係が補っていただきましたが、今回は特別に利益の出ている企業を除いて全職種で全体的に低迷しているので、その辺やはり人の考え方も変わっていくと思いますので、変わりつつあると思っています。

○委員 私が先走り過ぎかもしれないが、戦略に分野横断的な具体的な取組みたいなものを入れてほしいなと思っています。やはり、コロナということもありますが、子育てには時間がかかるので、職住近接できるワークステーションとかコワーキングスペースみたいなものを整備していくみたいなことです。そういうのは都市整備部と商工がセットで動いていかないといけないのかなと思ったりもしますが、例えば、長期間放置されているような空家を自治体で後押しして、そういうシェアオフィスにしてみるんだとか、あるいはそこで企業に新たに何かをやってもらうなど。テレワークオフィスまでいくのかどうかかわからないが、要は子育ての時間が確保できるように近く

でも働けるスペースが確保できたら良いということがあります。

後は、交通不便地の寺方南小学校区に人気があるということです。各小学校から子どもを通わせたくなるような特別な取組をやっていっていただき、それをどんどん情報発信してもらい、例えば英語とかプログラミングとかを力を入れてやっていますよとか、進学実績はこうですよとか、色々あると思いますが、ブランド化のため小中学校でそういう取組等を発信するというのも盛り込んでいただくと良いかなと思います。

あと最後3つ目は、ハード面のまちのリブランディングというかそこら辺で、鶴見緑地もあるので、みどりの基本計画などもあるように、街路樹などで緑をいっぱいつくって、先ほども出ていたような広場や芝生、スポーツができるような公共空間みたいなものを整備して、そういうものもセットで入れ込んでもらえると、子育ての目標に近づく手段になると思います。

○委員長 小中学校もそうですけども、学校も来年今頃あれは何だったんだろうと言っているのか、やはりやってよかったなと言っているかわかりませんが、オンラインで授業はできるようなシステムにも守口市だけではなかなか難しいのかもしれないですね。近隣市と連携しながらしないといけないのかもしれないですが、そこ重要かと思います。仕事もやはりオンサイトで働く仕事もいっぱいありますが、テレワークで済むような仕事も増えてますから、そういう人たちをここに定住していただくとかいうのもね。そういう意味では鶴見緑地も大きい魅力になるのかもしれないです。ぜひ多面的に考えていただきたいと思います。他に、意見はありませんか。

(なしの声あり)

○委員長 それでは、2番目の報告として、令和2年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について事務局からご説明をお願いします。

○事務局 令和2年度の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた今後の進め方についてご説明いたします。まず、お手元の資料「第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のスケジュールについて」をご参照ください。

第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定については、策定までに本市の副市長を本部長とする庁内組織である「守口市まち・ひと・しごと創生本部会議」を5回、創生委員会を4回開催する予定としております。その間の策定作業としては、去る7月に第1回創生委員会を開催し現戦略の取組状況と第6次総合基本計画及び次期戦略の概要を説明し、そこでの意見を反映させ、去る8月20日に第1回本部会議において取組の体系をお示しし、意見を聴取いたしました。本日は、それらの意見を反映させた取組の体系を委員の皆様を確認を賜ったところでございます。

今後、取組の体系に基づく具体的な取組等に関し、庁内各担当部局と調整を行い、その結果を掲載した戦略素案を10月から11月に開催予定の第2回本部会議及び第3回創生委員会においてご確認いただき、そこで出たご意見等を反映し、修正等をしていきます。

そして、その内容を第3回本部会議において確認した後、市民の皆様幅広く意見を求めることを目的とした制度であるパブリックコメントを実施いたします。その結果を踏まえ、事務局で一定精査し、反映した戦略案を策定いたします。

令和3年1月頃に実施予定の第4回本部会議において確認後、第4回創生委員会を開催し、ご答申いただく予定としております。その後、できる限り速やかに第5回本部会議を開催し、第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略として確定してまいりたいと考えております。その後、総合戦略の印刷製本等を行い、令和3年3月末までの完成を目指すものです。以上で、ご説明を終わります。

○委員長　この件につきまして、皆さまから意見とかコメントはございませんでしょうか。

先ほどの質問のときに、第1回本部会議で若い世代といった細かいニュアンスがわからない上に、若い世代と言い過ぎというような意見があったかと思いますが、あのあたりの表現を再検討していく予定ですか。

○事務局　まず、若い世代というところは具体的にどこまでを指すのか、

例えば中学生あるいは大学生ぐらいを指すのか、あるいは家族を持たれるまでのちょうど社会人になってから家族を持たれる間までのところを指すのかというところは、その表現がなかなか難しい部分があって、単純にイメージとして若い世代と定義づけておりますので、今後整理するとすれば、この戦略や基本目標の中身を見て、その辺りをどう定義するのかということをし、っくりする若い世代とは守口市ではこう定義しますというようなところをもう少ししっかりと見ていかないといけないと考えています。その辺りは本部会議でも同様の意見を賜ったところですので、次回の第3回創生委員会のときまでに若い世代というところは、総合戦略は人口減少に歯止めをかける戦略であり、外せませんので、その定義をもう少しきっちりとお示しをできればと考えております。

○委員長 なるほど。なかなか良い言葉が思い浮かばないから、難しいなと思いました。何となくふわっと使っているんだけど、多分使っている人によっても微妙に実はずれているのかもしれない。子育て世代というのも繊細な話で、子どもを増やすことが全てではないことにも留意願いたいと思います。

他にございませんか。特に、こういう戦略はどうしても外から来ていただける人が増えることが良いということが暗黙のうちあるように感じておりますが、守口市に住んでいる方が子どもを生んで育ててもらうことが理想ではありますが、若い子どもを育てる世代から見ると、私たちにもう少し何かあっても良いんじゃないかという考え方も出てくるかと思えます。その辺はいかがでしょうか。

○委員 私は結構恩恵を受けている、子どもが今2歳半でほぼ無償で保育していただいているので、特にこうしてほしいというのは今のところはありません。

○委員長 例えば、そのお子さまが次に小学校へ行くとかそういうときにこんなふうになったら良いなとかはありますか。

○委員 私の妻もそんなに何かしてほしいというよりも、学力が上がるか

どうかというのも本人次第だと思っています。本人がどれだけ学力を上げたいと思えるか、そういう学力って勉強してすぐ上がるかと言ったらそうでなくて地道に努力してちょっとずつ上がっていくものなので、学力を上げてほしいというよりもそういう気持ちを醸成してほしいなと思います。今2歳半の子どもを育てておりますが、何にも教えなくても勝手に言葉を覚えて、自分の好きなことは何でもいつの間にか勝手に覚えている。そういう誰しも持っていたはずの気持ちをいつの間にか忘れて、全然勉強しなくなってみたいな状態になってしまうので、そういう気持ちを呼び起こしたりとか、またつくってあげたりとか、そういうことをするのが、学力を上げるということも大事だと思うんですけど、そういうマインドというかそういうのをつくってあげていけたらと思っています。

○委員 私も特に今不満はないんですけど、子どもいなくて夫婦2人なんですけど、私は大阪市内に仕事に出ているので、守口市はすごい便利で治安も全然悪くないし、バランスが取れていて住みやすく個人的には何も不満はないので、みんなにもそれを分かってほしいなと思います。

○委員 うち、子どもが3人いますが、保育園児と小学生といるんですけど、小学校の登校班に必ず親がついていかないと駄目なので、仕事を持っていると難しい人もいるかと思います。だから、引っ越す上でそういうところも引っかかる人もいてるんじゃないかなと思います。子どもの安全を考えたら必要なことだと思いますが、もし引っ越しする前にそういうのを知っていたらやめようかなと思う人も多分いると思います。うちの地域では一切援助はなくて、赤ちゃんがいても必ず行かないといけない、順番が回ってくるので、結構大変です。

あと、もう1つ思うことはごみの代金が高いと思います。ごみを出すのにお金払うことが結構多く、高槻市は一切無料だったので、勿体なく思うことがあります。

あとプラスチックと普通ごみと分けて出すようになっていますが、あまり分別されていないように感じます。



○委員 先ほどの意見を補足して、門真市と守口市との違いで、もちろん守口もすごく良いところたくさんあり、良い人もたくさんいますが、学力を上げるというのもすごく大切だと思います。あわせて、文化面も育てていくと、文化の中でも学びがあるので、そこから勉強に興味を持つ、自然と遊びの中から学んでいるということはたくさんあると思います。学力とともに文化の面もサポートするべきだと思います。

○委員長 他に、ご意見はございますか。

○委員 ちょうど今、道路が拡張工事されている豊秀松月線について、たばこのポイ捨て禁止となっていますが、たばこがいっぱい捨ててあります。守口市はたばこを吸ってはいけないまちづくりになっていますが、たばこがいっぱい捨ててあってちょっとごみごみとした印象があります。そういうところを何か良い方法があればお伺いしたい。

○委員長 たばこのポイ捨てに関する対策としては、最近はやりの行動経済学の教科書で一番最初に掲載されている内容で、ここに立ったらここに入れてくれるとかいう分析がありますけれども、そういうのもちょっと参考にしたら良いかもしれないと思います。それ以外のご意見等はございますか。

(なしの声あり)

○委員長 それでは、本日はお忙しい中、ご出席を賜り、本当にありがとうございました。

では、今回の委員会の署名委員については、大森委員と吉原委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。それでは、第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会は閉会します。どうもありがとうございました。

◇ 午後5時30分 閉会

~~~~~